

経営比較分析表（平成30年度決算）

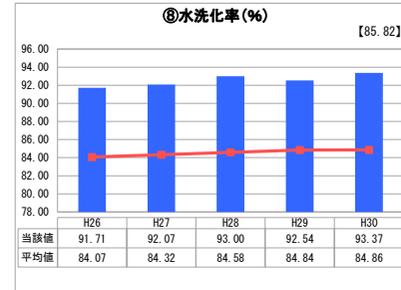
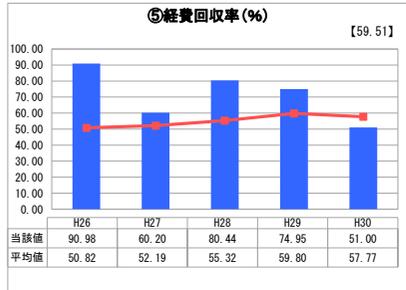
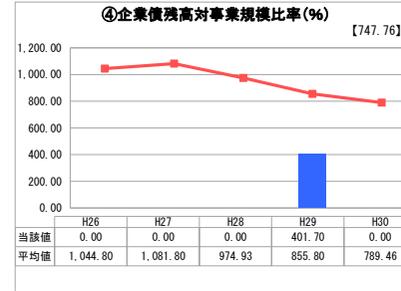
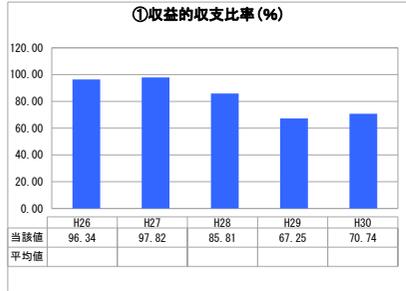
岡山県 西栗倉村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	有収率 (%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	99.52	100.00	3,045

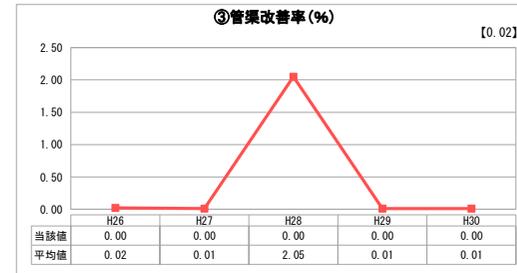
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
1,458	57.97	25.15
処理区域内人口 (人)	処理区域面積 (km ²)	処理区域内人口密度 (人/km ²)
1,447	0.61	2,372.13

グラフ凡例	
■	当該団体値 (当該値)
—	類似団体平均値 (平均値)
【	平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経営の健全性について、①収益的収支比率から見られるように実質赤字経営となっており、経営の改善が急務と考える。令和4年度頃まで地方債償還金が増加していく計画であるため現状のままでであると赤字がより一層増加して行く傾向にある。

地方債残高の規模について④企業債残高対事業規模比率から類似団体と比較比較した場合、約半分の比率になっているが、上記のとおり今後の更新事業により積ばいまたは一時的に増加傾向にある。

料金水準について、⑤経費回収率について類似団体と比較した場合、平均を下回っている。今後も適切な料金収入の確保が必要であり料金改定等必要と考える。

費用の効果性について、⑥汚水処理原価から類似団体と比較し費用の効果性が高い。

施設の効果性について、⑦施設利用率から類似団体と比較効果的に汚水処理を行っていると判断できる。

以上より、類似団体と比較した場合、現状においては費用及び施設の効果性は高く、経営に合った施設規模であるが、起債償還金等を一般会計から基準外繰入金により賄っているものであることから、適正な料金設定等収入面での経営改善が必要である。

2. 老朽化の状況について

平成6年に供用開始しており、共用開始から25年程度が経過している。

平成22年度から順次機器等の更新を計画、実施している。管渠の更新は未実施であるため、早期に計画を立て更新を実施していく必要がある。

全体総括

施設の更新は随時行ってきたが管渠の更新実績がなく老朽化対策が不十分である。

施設改修を行いながらも経費経費回収率を類似団体平均値以上に保ってきたのは一般会計からの基準外繰入金に頼ったものであり、正常な経営状況であるとは言えない。

料金の見直しを含めた経営計画を行う必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。